博 士 論 文 の 要 旨 及 び 審 査 結 果 の 要 旨

氏　　名	HU Xi
学　　位	博士（教育学）
学 位 記 番 号	新大院博(教)第 33 号
学位授与の日付	令和 5 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 3 項該当
博 士 論 文 名	中国における農村小学校美術教育課題とその克服に関する考察 ―重慶市の農村教育現場の調査研究を通して―
論文審査委員	主査　教授　柳沼　宏寿
	副査　教授　佐藤　哲夫
	副査　教授　田中　咲子

博士論文の要旨

本論文は，中国の急速な発展の一方で農村部においては経済的遅延による教育格差が滞ったままであるという問題に対し，美術教育の実践を通して質の高い美術教育を保障するための理念と方法論を構築することを目的とする。そのために中国の教育現場の実態調査をふまえつつ，自然主義教育観や現代アート，哲学などに関する文献調査によって理論的に考察するとともに，その実践として発案した授業を現場実践により検証している。

本論文は，以下のとおり構成されている。

序章では，中国における「農村美術教育」の課題について，教育行政の背景とともに先行研究を概観しながら論じ，本論文の目的へつなげている。

第Ⅰ章では，中国における農村美術教育の現状について，現場訪問やインタビューなどのフィールドワークを通して明らかにしている。国家政策としては「素質教育」（子どもの素質や人間性を重視する教育）を推進する一方，農村部では施設・設備，教師，材料・道具等々，経済格差の問題が露呈しており，美術の授業では，美術の免許を持たない教師が担当していることや，免許を持っていても旧来の写実重視に偏重している実態を捉えている。また，使用教科書を分析し，国が定める「美術課程標準」に沿った教科書でも，内容の関連性に矛盾があることや農村部の実態に合わない点を指摘している。さらに，現場の授業観察を通して，題材や指導方法など，都市部と農村部の格差が浮き彫りにされている。

第Ⅱ章では，中国における美術教育の指標としての 2022 年版「芸術課程標準」を取り上げ，その編纂の背景となる国家理念や新時代への方針に沿って定められている美術の教育課程を整理し

ている。特に「芸術課程標準」の内容全体から筆者が発達段階ごとに学習のねらいを整理し図表にした。

第Ⅲ章では，農村美術教育での問題点（教師中心主義，臨画主義，画材不足，教師中心及び教科書中心という統治的な教化教育）を乗り越えるためのヒントを，「自然主義教育観」「現代アート」「不条理と反抗の哲学」という３つの視点から考察している。「自然主義教育観」では，ルソー，ペスタロッチ，モンテッソーリらの発達論をもとに自然との関わりの重要性を再確認し，中国の研究者による先行研究を手がかりとしながら中国農村部の教育への応用の可能性について考察している。「現代アート」では，主としてイタリアの芸術運動であるアルテポーベラ（貧しい芸術を意味する）の理念と作品について分析し，農村部の環境を題材化する方法論へつなげている。さらに「不条理と反抗の哲学」では，カミュの哲学観やデュシャンをはじめとしたダダイズムの芸術観において，不条理という現実を受け止めつつそれを表現へ昇華している事例を参照しつつ，農村の美術教育の実践への応用を提案している。

第Ⅳ章では，前章までの考察をふまえて４つの観点（１美術教育の環境，２教育内容，３生徒への評価，４授業の方法）から具体策を提案している。まず「１美術教育の環境」としては，自然に恵まれた環境にあることを生かしながら自校への愛着心を持つことができるような美しい学舎を構築することを提案している。農村部の学校現場が陥っている寂しい印象に対して，機能性と相まった装飾（表示や作品掲示）を積極的に打ち出すことを提言している。「２教育内容」については，「自然環境，社会生活，郷土文化・民間美術」などの観点から，自分たちの住む地域に対する愛着や誇りを抱かせるようなアプローチを提言している。「３生徒への評価」では，農村部の子供達に欠ける自己肯定感をいかにして抱かせるかを中心に，その方法を提言している。「４授業の方法」では，コミュニケーションを活性化させることと主体的に探究学習に取り組むことができるようなアプローチを提言している。

第Ⅴ章では，前章の提案を踏まえた題材を考案し，中国農村部にある教育現場と連携して授業実践を行った内容（「ミニ案山子を作る」「落ち葉で楽しむ」「粘土を楽しむ」の三つ）について紹介している。それぞれのねらいを踏まえ「活動の流れ」「教学の活動」「評価の観点」「メディアの応用」という４つの項目ごとに本研究の趣旨と照応させながら構造化している。

以上の考察（検討）に基づき終章において，現在の中国農村部が陥っている現状を経済的困窮による教材教具の不足，詰め込み教育，教師中心主義などに捉え，その克服には自然主義教育による子どもの心の醸成，不条理哲学のように窮状を自覚する思考，そして現代アートに内在する批判的思考を表現活動に組み込む姿勢が手がかりとなると結論づけている。

審査結果の要旨

本論文は，中国で「素質教育」が推進されている中，農村部における教育格差の問題に対する美術教育のあり方を提言するものである。共産主義国家という政治的制約を抱える中で，自然主義・現代アート・不条理哲学という視点からの考察を実現可能な具体策を提言している点において注目されるべきものである。

課題解決の糸口についての着眼点とその分析は評価されるが，それを実践に移す過程の論理展

開が十分とは言い難く，結論としての提言や実践が説得力に欠ける難点がある。しかしながら，中国が抱える教育的課題に対し，その解決の糸口を見出そうとした「自然主義・現代アート・不条理哲学」という三つの照準は，自らが農村の教育現場において身をもって発想したものであり，それぞれの丁寧な解釈と分析は課題解決への期待感を抱かせるものでもある。今後，中国の広い地域で実践的に探究していくべき価値は十分あると考えられ，本論文が提起する価値として評価できる。

なお，本論文は美術教育の立場から実践と理論的考察を行なったものであり，学位は博士（教育学）とするのがふさわしい。

以上の審査結果から，本論文審査委員会は，全会一致で，本論文が博士論文としての水準に達しており，博士（教育学）の学位を授与するに値するものと判断した。